

生育診断ほ調査結果と今後の管理

令和8 (2026)年6月29日

那須農業振興事務所

- ・ 水管理：今後も間断かん水を継続しましょう
- ・ 防除：斑点米カメムシ対策の準備を始めましょう
- ・ 管内北部：前年より生育が遅れている
- ・ 管内南部：前年より茎数がかなり多い
→ほ場によっては中干しを検討

1 現在の生育状況

水稲生育診断ほ調査結果(調査日：6/22、品種：コシヒカリ、施肥：全量基肥)

調査地点	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢	葉色 (葉色板)	生育診断値 (葉色×茎数)
北部 (那須町寺子丙)	5/10	34.5	397	8.6	4.5	1,770
		64%	91%	-1.3	±0.0	79%
南部 (那須塩原市一区町)	5/2	55.2	736	10.4	4.8	3,540
		85%	124%	+0.5	+0.2	128%

※下段は前年比及び前年差

栽植密度は、北部：20.0株/m²、南部：18.2株/m²

- ・ 草丈：前年と比べて北部はかなり低く、南部は低い
- ・ 茎数：前年と比べて北部は少なく、南部はかなり多い(南部の調査区では中干しを検討)
- ・ 葉齢：前年と比べて北部は1.3枚少なく、南部は0.5枚多い
- ・ 葉色：北部、南部ともに前年並み

2 今後の管理

(1)水管理

①間断かん水未実施ほ場→1株茎数を確認して、間断かん水を開始しましょう。

②すでに間断かん水を実施しているほ場→このまま間断かん水を継続しましょう。

※茎数が多すぎる、葉色が濃すぎる場合は、軽い中干しの実施を検討しましょう

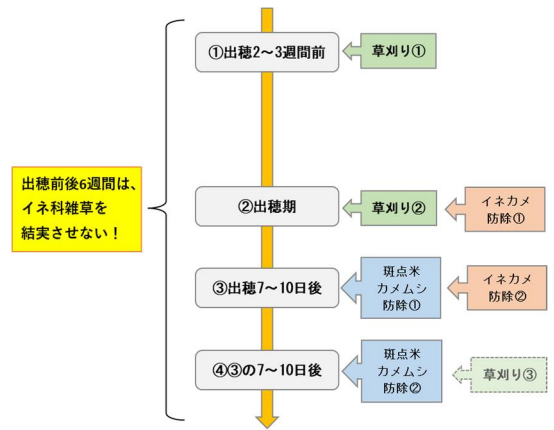
間断かん水や軽い中干しを実施すると、無効分げつ(穂にならない分げつ)が少なくなり、茎が太くなることで倒伏を防止できます。また、収量、品質面でマイナス要因となる籾数の過剰も防止できます。

イネの生育ステージごとの水を入れるタイミング

生育ステージ	水を入れるタイミング
目標茎数確保前～出穂期前	ほ場の足跡に水が残るくらい
出穂期前～出穂後30日	田面が露出する前 (水がなくならないように注意!)

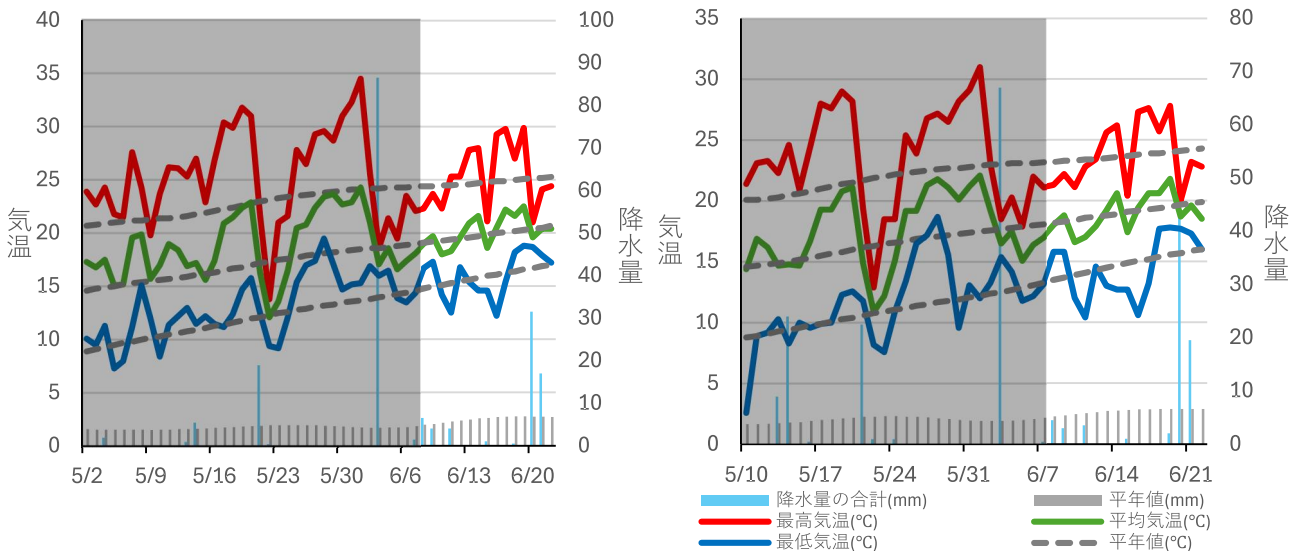
(2) 斑点米カメムシ類対策

- ・斑点米カメムシ類は、畦畔のイネ科雑草の実を經由しては場内へ侵入することがあります。斑点米カメムシ類による被害防止のために、畦畔の草刈りは①出穂期2～3週間前、②出穂期頃の計2回行いましょう。出穂後の2～3週間後にも行くと、さらに効果的です。
- ・薬剤散布は、地域一斉防除が効果的です。薬剤散布の適期は、1回目：出穂期の7～10日後、2回目：1回目の7～10日後です。
- ・近年発生増加が懸念されるイネカメムシは、①不稔を引き起こすこと、②草刈りによる防除が困難なこと、③他の斑点米カメムシ類と防除適期が異なる（7日程度早い）ことが特徴です。
※管内での防除の優先度は、他の斑点米カメムシ類に比べて高くないですが、今後も発生動向に注意が必要です。



草刈りと薬剤防除のタイミング

3 気象の経過（左：大田原アメダス、右：黒磯アメダス）



前回調査日（6/8）から気温が平年並みで推移したが、昨年より気温が低く推移した（昨年と比べて1日あたりの平均気温が -2.8°C ）ことで、生育は昨年より遅れている。

(参考) 今後の気象（関東甲信越地方1か月予報、6/25 気象庁発表）

気温、降水量、日照時間の各指標の確率 (%)			
気温	関東甲信越地方	向こう1か月 06/27～07/26	10 40 50
		1週目 06/27～07/03	30 50 20
		2週目 07/04～07/10	10 40 50
		3～4週目 07/11～07/24	10 30 60
降水量	関東甲信越地方	向こう1か月 06/27～07/26	30 30 40
日照時間	関東甲信越地方	向こう1か月 06/27～07/26	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

向こう1か月の気象予報

- ・気 温： 高い確率 50%
- ・降 水 量： 多い確率 40%
- ・日照時間： 少ない確率 40%



今後は生育が早まる可能性が高い
→畦畔の草刈り、薬剤防除の準備
を早めに行いましょう



7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

「自分だけは大丈夫」と思わないで、こまめな休息、水分補給を！